

達第二百六十三號

内國註文造船造兵工事物件監督検査委託規程中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第二條中「富山」ノ下ニ「、京城、臺北」ヲ加フ

附則

昭和十六年六月十二日達第二百八號ハ之ヲ廢止ス

(參照) 諸例則卷一、一三六頁及一四〇ノ二頁

昭和十六年達第二百八號ハ兼二浦ニ造船造兵監督官ヲ匿ク件ナリ

達第二百六十四號

購買兵器竝ニ材料物品檢印規程中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

達

六二五

1854

達

第六條第一項中

(諸例則卷三、五五九頁参照)

富	兼二浦
山	ケ
ト	ヤ

ヲ

臺	富	京
北	山	城
タ	ト	ケ
イ	ヤ	

ニ改ム

六二六

1855

達第二百六十五號

大東亞戰爭中捕獲セル伊國河用砲艦「エルマノカローット」ニ左ノ通命名ス

昭和十八年十一月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

軍艦 鳴海 (ナルミ)

達

六二七

1856

達第二百五十八號

海軍官廳從業者國民勞務手帳取扱規程中左ノ通改正ス

昭和十八年十月二十七日

海軍大臣 嶋田繁太郎

附表中

第一海軍燃料廠	横須賀海軍工廠
---------	---------

第一海軍衣糧廠	第二海軍燃料廠	横須賀海軍工廠	多賀城海軍工廠
辻堂支廠ヲ除ク			

(諸例則卷四、三六〇ノ一四ノ二乃至二四ノ二ヲニ参照)

改ム

達

六一七

1857

達

達第二百五十九號

海軍官廳被用者職業能力申告事務取扱規程中左ノ通改正ス

昭和十八年十月二十七日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

附表中

横須賀海軍工廠	ヲ
第二海軍燃料廠	ヲ

横須賀海軍工廠	ニ
多賀城海軍工廠	ニ
第二海軍燃料廠	ニ
第一海軍衣糧廠	ニ
第一海軍衣糧廠	ニ
辻堂支廠ヲ除ク	ニ
辻堂支廠ヲ除ク	ニ

(諸例則卷四、三六〇ノ一四ノ一参照)

改ム

六二八

1858

掌經理長

掌衣糧

給與

糧食

被服

需品

達第二百六十六號

別紙對スル海軍規格ヲ別紙ノ通定ム

別紙ハ海軍艦政本部長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十八年十一月二日

海軍大臣 嶋田繁太郎



達

六二九

1859

達第二百六十七號

港用品備品定額表中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月四日

海軍大臣 嶋田繁太郎

區	別	類別	番號	品	名	數稱	摘	要	記	事
改正	備品	一二	五〇	防	毒	面	個			

達第二百六十八號

海軍航空隊職員服務規程中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月四日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第二十五條ヲ第二十六條トス

第二十五條 海軍航空隊令第二十九條ノ規定ニ依リ分遣隊長ノ管掌スベキ事項左ノ如シ

一 分遣隊ノ分掌事項中將來計畫其ノ他重要ト認ムルモノヲ除キタル事項

達

六三一

1860

達

三 下士官、兵及雇員備人ノ人事ニ關スル事項

(諸例則卷一、三八二頁参照)

六三二

1861



達第二百六十九號

艦船船體其ノ他ノ主管並分擔ニ關スル規程申左ノ通改正ス

昭和十八年十一月五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

附表ヲ左ノ如ク改ム

(附表)

軍艦船體主管別並ニ分擔別標準

一 内務長 主管

左記ノ箇所及之ニ屬スル船體部物件並ニ他ノ主管ニ屬セザル各部

防禦指揮所、公室及居住室、食器室、食器消毒室、流場、他主管ニ屬セザル通路、事務室、休憩室、控室、倉庫、格納所、浴室、洗面所及廁等、短艇、應急部指揮所、應急班指揮所、應急班哨所、防毒裝置、通風機室、通風裝置、暖房裝置、冷房裝置、製氷機室、製氷室、冷却機室、彈火藥庫冷却裝置、冷氣器室、揚船機室、揚艇機室、卷上機室、揚艇機管制所、消防管制所、消防管、注排水部指揮所、注排水管制所、注排水裝置(彈火藥庫、機關室ヲ除ク)他ノ所掌ニ屬セザル諸

達

六三三

1862

ポンプ室、電機部指揮所、發電機室、管制盤室、配電盤室、配線室、配電室、電線通路、電動機室、動力室、變壓機室、蓄電池室、同格納所、同充電室、安定機室、電話交換室(所)、工場、主トシテ使用スル傳聲管及空氣傳送管、其ノ他主務上使用シ又ハ主管ノ兵備品艤裝品ヲ据付ケ若ハ格納スル箇所

### 二 航海長 主管

左記ノ箇所及之ニ屬スル船體部物件、

艦橋、作戰室、傳令所、防空指揮所、船橋、航海長休憩室、司令塔、海圖室、操舵室(所)、舵柄室、舵取機室、操舵裝置、舵、經線儀室、轉輪羅針儀室、測深室、測深儀室(機械ノ部ヲ含ム)、測程儀室、信號所、見張指揮所、信號指揮所、見張所、見張通信所、見張指揮通信所、氣象作業室、海象氣象室、測量作業室、製圖室、航海科専用天窓通風筒及昇降口、操舵用傳聲管、主管ノ諸管及電線通路、航海科諸倉庫及諸格納所、主トシテ使用スル傳聲管及空氣傳送管、其ノ他主務上使用シ又主管ノ兵備品艤裝品ヲ据付ケ若ハ格納スル箇所

### 三 砲術長 主管

左記ノ箇所及之ニ屬スル船體部物件

主砲指揮所、主砲砲塔指揮所、副砲指揮所、高角砲指揮所、射擊指揮所、機銃指揮所、觀測所、發令所、發令所電話交換所、射擊所、測的所、測巨所、砲戰指揮通信所、照射指揮所、上空直衛指揮所、砲塔、砲廓、發煙器室、發煙器操作所、機銃動力室、水壓ポンプ室、旋廻機室、彈藥積卸装置、彈藥通路、揚彈藥筒、揚彈藥機室、給彈室、揚藥室、砲術科主用ノ彈火藥庫、同注水装置、同防熱装置、砲術科専用天窓通風筒及昇降口、主管ノ諸管及電線通路、軍樂器室、探照燈ヲ据付ケ格納及異動スル箇所竝ニ其ノ装置、砲術科諸倉庫及格納所トシテ使用スル傳聲管及空氣傳送管、其ノ他主務上使用シ又ハ主管ノ兵備品艙裝品ヲ据付ケ若ハ格納スル箇所

#### 四 水雷長 主管

左記ノ箇所及之ニ屬スル船體部物件

發射指揮所、發射發令所、發射測的所、發射管室魚雷調整所、魚雷格納所、縱舵機調整所、水雷積卸装置、空氣壓縮装置、空氣壓縮ポンプ室、第二空氣壓縮ポンプ室、氣蓄器室、水雷科主用火藥庫、同注水装置、同防熱装置、水雷科専用天窓通風筒及昇降口、主管ノ電線及諸管通路、水雷科諸倉庫及格納所、主トシテ使用スル傳聲管及空氣傳送管、其ノ他主務上使用シ又ハ主管ノ兵備品艙裝品ヲ据付ケ若ハ格納スル箇所

達

六三五

1864

## 五 機雷長 主管

左記ノ箇所及之ニ屬スル船體部物件

投下指揮所、敷設指揮所、投射指揮所、掃海指揮所、掃海號令所、機雷室、機雷落下機室、機雷敷設原動機室、探信室、探信儀室、水中聽音室、水中聽音機室、機雷科専用ノ彈火藥庫、同注水装置、同防熱装置、機雷科専用天窓通風筒及昇降口、主管ノ電線及諸管通路、機雷科諸倉庫及格納所、主トシテ使用スル傳聲管及空氣傳送管、其ノ他主務上使用シ又ハ主管兵備品艤裝品ヲ据付若ハ格納スル箇所

## 六 通信長 主管

左記ノ箇所及之ニ屬スル船體部物件

通信指揮室、暗號室、電信室、受信室、送信機室、無線電話室、方位測定室、水中信號室、水中信號機室、無線調整室、電波探信儀室、同電壓調整器室、電波鑑査室、通信科専用通風装置、空中線展張及取入装置、通信科専用天窓通風筒及昇降口、主管ノ電線及諸管通路通信科諸倉庫及格納所、主トシテ使用スル傳聲管及空氣傳送管、其ノ他主務上使用シ又ハ主管兵備品艤裝品ヲ据付ケ若ハ格納スル箇所

### 七 飛行長 主管

左記ノ箇所及之ニ屬スル船體部物件

飛行甲板（出發甲板、歸着甲板）、發着艦指揮所、射出指揮所、飛行機格納庫（筒）、飛行機用昇降機電動機室、同管制所著艦制動機室、制動機管制所、滑走制止裝置管制所、射出機管制所、射出機原動機室、補用發動機格納所、發動機調整所、發動機試運轉所、磁石發電機調整所、爆彈庫、揚爆彈動力室、計器試驗所、航空用輕質油庫（タンク）、同ポンプ室、同注水裝置、同消火裝置、同通風裝置、同防熱裝置、同積込裝置、同送給裝置、航空機用潤滑油庫、發動機積卸裝置、輕質油管制所、輕質油弁室、兵器調整所、寫真室、暗室、専用氣蓄器、飛行機積込用裝置、主管ノ電線及諸管通路、飛行事務室諸倉庫及諸格納所、搭乗員待機室、主トシテ使用スル傳聲管及空氣傳送管、其ノ他主務上使用シ又ハ主管ノ兵備品艙裝品ヲ据付若ハ格納スル箇所

### 八 機關長 主管

左記ノ箇所及之ニ屬スル船體部物件

運轉指揮所、機械部指揮所、機械室、機械操縱室、軸室、罐部指揮所、罐室、補助罐室、罐操縱室、蒸氣管通路、煙觀測所、造水裝置室、機關長待機所、機關科准士官以上待機所、諸倉庫及格

達

六三七

1866

納所、石炭庫、新炭庫、重油タンク、重油移動ポンプ室、潤滑油タンク、輕質油タンク、重油、潤滑油、輕質油積込装置、給水タンク、豫備水タンク、眞水タンク、同積入口、眞水ポンプ室、機械室及罐室下二重底、機關科専用天窓通風筒及昇降口、機關科専用通風装置、主管ノ電線及諸管通路、主トシテ使用スル傳聲管、其ノ他主務上使用シ又ハ主管ノ機關、機關附屬物兵備品艤裝品ヲ据付ケ若ハ格納スル箇所

九 軍 醫 長 主 管

左記ノ箇所及之ニ屬スル船體部物件  
 治療室、傷者收容室、細菌検査室、病的検査室、藥劑室、毒物検査室、エックス線室、消毒器室、手術室、齒科治療室、士官病室、兵員病室、隔離室(所)、各病室及隔離室附屬浴室受厠、醫務科諸倉庫及格納所、醫務科専用通風装置、醫務科専用天窓通風筒及昇降口、其ノ他主務上使用シ又ハ主管ノ兵備品艤裝品ヲ据付ケ若ハ格納スル箇所

一〇 主 計 長 主 管

左記ノ箇所及之ニ屬スル船體部物件  
 諸烹炊室、調理場、庶務室、厨業事務室、糧食庫其ノ他主計科諸倉庫及格納所、冷蔵庫、主計科

1867

専用通風装置、主計科専用天窓通風筒及昇降口、其ノ他主務上使用シ又ハ主管ノ兵備品艤裝品ヲ  
据ケ若ハ格納スル箇所

附 則

本達ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(参照 諸例則卷三、三五七頁)

達

六三九

1868

達第二百七十號

海軍勞働技術統計調査施行規則中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

附表横須賀鎮守府ノ部中

横須賀海軍工廠 一名 勞務者約名ニ付一名

ノ次ニ

多賀城海軍工廠

同右

同右

ヲ、

横須賀海軍建築部

同右

同右

ノ次ニ

第一海軍衣糧廠

同右

同右

支廠

同右

同右

ヲ加フ

(諸例則卷一、八五八ノ六頁参照)

達

六四一

1869



達第二百七十一號

水上艦船裝備ノ電路、蒸氣管、送氣管及水壓管ノ主管別標準別表ノ通定ム

昭和十八年十一月九日

海軍大臣 嶋田繁太郎

本達ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年達第七十五號ハ之ヲ廢止ス

(別表一葉添)

(參照 諸例冊卷三、三六一頁)

達第二百七十二號

海軍規格中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月九日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海軍規格機5タービン翼車材第五條第四號ヲ左ノ如ク改ム

達

六四三

1870

四 鐵造品ノ衝擊試験ハ 120 フートポンド型アイソツト試験又ハ 25 kgm 型又ハ 30 kgm 型シャルビー試験機ニ依リ標準衝擊試験片第一號又ハ第三號ヲ用ヒテ試験ヲ行ヒ次表ノ規定ニ合格スルコトヲ要ス

種 別	アイソツト試験機ニ依ル場合 kgm	シャルビー試験機ニ依ル場合 kgm/cm <sup>2</sup>
第一種	1.5 以上	2 以上
第二種	3 "	4 "
第三種	5 "	7 "
第四種	4 "	6 "

1871

主管別	區分	記事
内務長	一次電源裝置用電路(發電機電路、環式主電路、連絡用主電路、管制電路、外線接續用電路等)・二次電源裝置用電路(直流二二〇V豫備電源、直流二〇V、一〇〇V電源、交流二〇V、五〇V、六〇V、一〇〇V、二二〇V電源、交流四四〇V、豫備電源等)・照明電燈並ニ扇風機裝置用電路・防禦指揮裝置用電路・一般交換電話用電路・高聲令達機用電路(飛行機指揮及移動用ヲ含ム)・高聲通話器用電路(他主管専用ノモノヲ除ク)・呼鐘裝置用電路電氣溫度計(冷藏庫用)電路・特殊多心線裝置用電路・電氣雜裝裝置用電路(試驗配電二次電源用、各種充電器、交流遮斷器試驗器、電動捲線機、電氣乾燥爐等)・電熱器用電路(電氣煖房器、電氣烹炊器、電氣湯沸器、電氣保溫器等)・主管各種電動機用電路(揚船機用、揚艇機用、揚貨機用、冷凍機用、製氷機用、冷却機用、一般通風機用、冷氣器用、移動通風機用、海水ポンプ用、ビルヂポンプ用、消防ポンプ用、工作機械用炭酸瓦斯充填ポンプ用、空氣壓縮ポンプ〔發電機用〕・安定機用、ラムネ製造機用、洗濯機用、調理機用等)・重油船給電電路・應急電源電路・醫療器用電路・其ノ他主管兵器專用電路及他主管兵器ニ專屬セザル電路・發電機揚船機冷却機製氷機其ノ他主管ノ蒸氣管、雜用蒸氣管、發電機用復水器氣壓試驗用送氣管・其ノ他主管ノ機關専用又ハ主トシテ使用スル蒸氣管・送氣管	一、電路ノ内譯 (イ) 電動機電路 (1) 單獨給電ノ (1) 動閉閉器 (又ハ遮斷器)或ハ主配電盤閉器ト電動機間電路 (2) 電動機附 (3) 屬品間電路 (4) 機側管制 (5) 集合給電ノ (1) 分電箱ト (2) 電動機間電 (3) 屬品間電路 (4) 電動發電機電 (イ) 路 (1) 電動機側 (2) 二次側全部 (ハ) 高聲電話・各種 通話裝置・管 制裝置・指示裝 置・管理裝置航 海燈・信號燈等 ノ電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源配電盤 接斷器又ハ電 源分電箱ト給 電點間電路電 路(但シ低壓 配電盤ト配線 盤(又ハ配線 箱)間電路ヲ 除ク) (ニ) 其ノ他ノ諸裝 置電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源電路 一、二、三項 ニ準ズ 二、蒸氣管(機關長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 補助機械ニ專 用ノ元弁又ハ同 一主管ノ補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 補助機械ヨリ元 弁迄(元弁ヲ含 ム)以下做之) (ロ) 他主管補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 該補助機械ノ内 主要ナルモノノ 蒸氣管ハ該補助 機械ヨリ元弁迄 トシ他ノ中間弁 ヨリ補助機械迄 トシ該補助機械 ニ元弁ヲ含ム 三、送氣管(水雷長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 專屬ノ氣密器 ヲ有スル場合ハ 該氣密器ヨリ裝 置迄 (ロ) 右以外ノ場合 ハ裝置ヨリ減壓 弁又ハ塞止弁迄
航海長	航海科通信裝置用電路・見張指揮裝置用電路・換舵施設用電路・電氣信號燈及航海燈用電路・海圖臺燈及日誌臺燈用電路・航海科諸兵器目盛照燈電路・舵取電動機及無電壓通報裝置用電路・蒸氣サイレン電磁石用電路・電氣サイレン(航海用)用電路・轉輪羅針儀、測程儀、測深儀、風信儀、航跡儀、哨信儀等ノ航海兵器用電路(電源關係ヲ含ム)・其ノ他主管兵器專用電路・其ノ他主トシテ使用スル送氣管	(一) 路 (1) 電動機側 (2) 二次側全部 (ハ) 高聲電話・各種 通話裝置・管 制裝置・指示裝 置・管理裝置航 海燈・信號燈等 ノ電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源配電盤 接斷器又ハ電 源分電箱ト給 電點間電路電 路(但シ低壓 配電盤ト配線 盤(又ハ配線 箱)間電路ヲ 除ク) (ニ) 其ノ他ノ諸裝 置電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源電路 一、二、三項 ニ準ズ 二、蒸氣管(機關長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 補助機械ニ專 用ノ元弁又ハ同 一主管ノ補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 補助機械ヨリ元 弁迄(元弁ヲ含 ム)以下做之) (ロ) 他主管補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 該補助機械ノ内 主要ナルモノノ 蒸氣管ハ該補助 機械ヨリ元弁迄 トシ他ノ中間弁 ヨリ補助機械迄 トシ該補助機械 ニ元弁ヲ含ム 三、送氣管(水雷長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 專屬ノ氣密器 ヲ有スル場合ハ 該氣密器ヨリ裝 置迄 (ロ) 右以外ノ場合 ハ裝置ヨリ減壓 弁又ハ塞止弁迄
砲術長	砲戰指揮裝置(發砲電路ヲ含ム)用電路・機銃射擊裝置(電源關係ヲ含ム)用電路・探照燈裝置(昇降裝置及電源關係ヲ含ム)用電路・照準演習機及照射演習機用電路・電氣溫度計及電氣警鳴裝置(彈火藥庫用)用電路・主管電動機用電路(砲塔動力用、砲塔內專用通風機用、揚彈藥機用、各種砲旋回俯仰用、射擊塔旋回用、方位盤旋回用、定速用、機銃塔旋回用等)・砲術科試驗配電盤及充電器用電路・砲術科諸兵器目盛照燈電路・水壓ポンプ用蒸氣管・大砲噴氣用送氣管・水壓管・其ノ他主管兵器機關専用又ハ主トシテ使用スル電路、蒸氣管	(一) 路 (1) 電動機側 (2) 二次側全部 (ハ) 高聲電話・各種 通話裝置・管 制裝置・指示裝 置・管理裝置航 海燈・信號燈等 ノ電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源配電盤 接斷器又ハ電 源分電箱ト給 電點間電路電 路(但シ低壓 配電盤ト配線 盤(又ハ配線 箱)間電路ヲ 除ク) (ニ) 其ノ他ノ諸裝 置電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源電路 一、二、三項 ニ準ズ 二、蒸氣管(機關長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 補助機械ニ專 用ノ元弁又ハ同 一主管ノ補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 補助機械ヨリ元 弁迄(元弁ヲ含 ム)以下做之) (ロ) 他主管補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 該補助機械ノ内 主要ナルモノノ 蒸氣管ハ該補助 機械ヨリ元弁迄 トシ他ノ中間弁 ヨリ補助機械迄 トシ該補助機械 ニ元弁ヲ含ム 三、送氣管(水雷長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 專屬ノ氣密器 ヲ有スル場合ハ 該氣密器ヨリ裝 置迄 (ロ) 右以外ノ場合 ハ裝置ヨリ減壓 弁又ハ塞止弁迄
水雷長	魚雷戰指揮裝置用電路(發射電路ヲ含ム)・主管電動機及電熱器用電路(發射管旋回用、魚雷裝填用、魚雷昇降用、空氣壓縮ポンプ用、第二空氣壓縮ポンプ用、發生機用、金屬洗滌器用等)・縱舵機調整臺及發射管諸測定口照燈電路・水雷科諸兵器目盛照燈電路・水雷科充電器用電路・空氣壓縮ポンプ用蒸氣管、送氣管(他主管ノモノヲ除ク)・其ノ他主管兵器專用又ハ主トシテ使用スル電路・蒸氣管	(一) 路 (1) 電動機側 (2) 二次側全部 (ハ) 高聲電話・各種 通話裝置・管 制裝置・指示裝 置・管理裝置航 海燈・信號燈等 ノ電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源配電盤 接斷器又ハ電 源分電箱ト給 電點間電路電 路(但シ低壓 配電盤ト配線 盤(又ハ配線 箱)間電路ヲ 除ク) (ニ) 其ノ他ノ諸裝 置電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源電路 一、二、三項 ニ準ズ 二、蒸氣管(機關長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 補助機械ニ專 用ノ元弁又ハ同 一主管ノ補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 補助機械ヨリ元 弁迄(元弁ヲ含 ム)以下做之) (ロ) 他主管補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 該補助機械ノ内 主要ナルモノノ 蒸氣管ハ該補助 機械ヨリ元弁迄 トシ他ノ中間弁 ヨリ補助機械迄 トシ該補助機械 ニ元弁ヲ含ム 三、送氣管(水雷長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 專屬ノ氣密器 ヲ有スル場合ハ 該氣密器ヨリ裝 置迄 (ロ) 右以外ノ場合 ハ裝置ヨリ減壓 弁又ハ塞止弁迄
機雷長	機雷戰指揮裝置用電路・探信儀水中聽音機用電路(電源關係ヲ含ム)・主管電動機用電路(機雷昇降用、機雷發射用、揚爆雷用、掃海具捲上用等)・舷外電路・其ノ他主管兵器專用又ハ主トシテ使用スル電路、送氣管	(一) 路 (1) 電動機側 (2) 二次側全部 (ハ) 高聲電話・各種 通話裝置・管 制裝置・指示裝 置・管理裝置航 海燈・信號燈等 ノ電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源配電盤 接斷器又ハ電 源分電箱ト給 電點間電路電 路(但シ低壓 配電盤ト配線 盤(又ハ配線 箱)間電路ヲ 除ク) (ニ) 其ノ他ノ諸裝 置電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源電路 一、二、三項 ニ準ズ 二、蒸氣管(機關長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 補助機械ニ專 用ノ元弁又ハ同 一主管ノ補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 補助機械ヨリ元 弁迄(元弁ヲ含 ム)以下做之) (ロ) 他主管補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 該補助機械ノ内 主要ナルモノノ 蒸氣管ハ該補助 機械ヨリ元弁迄 トシ他ノ中間弁 ヨリ補助機械迄 トシ該補助機械 ニ元弁ヲ含ム 三、送氣管(水雷長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 專屬ノ氣密器 ヲ有スル場合ハ 該氣密器ヨリ裝 置迄 (ロ) 右以外ノ場合 ハ裝置ヨリ減壓 弁又ハ塞止弁迄
通信長	送信機、受信機、無線電話機、方位測定機、電波探信儀(昇降裝置ヲ含ム)、電波探知機、印字機、換字機及測波器用電路(電源關係ヲ含ム)・通信管制裝置、通信指揮裝置、機內通話機送信(話)表示裝置、方位通信裝置、無線電信受聽裝置、無線電話交話裝置及電波鑑査裝置用電路・船地關係通信電路(艦内)・ラヂオ聽取用電路・其ノ他主管兵器專用電路	(一) 路 (1) 電動機側 (2) 二次側全部 (ハ) 高聲電話・各種 通話裝置・管 制裝置・指示裝 置・管理裝置航 海燈・信號燈等 ノ電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源配電盤 接斷器又ハ電 源分電箱ト給 電點間電路電 路(但シ低壓 配電盤ト配線 盤(又ハ配線 箱)間電路ヲ 除ク) (ニ) 其ノ他ノ諸裝 置電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源電路 一、二、三項 ニ準ズ 二、蒸氣管(機關長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 補助機械ニ專 用ノ元弁又ハ同 一主管ノ補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 補助機械ヨリ元 弁迄(元弁ヲ含 ム)以下做之) (ロ) 他主管補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 該補助機械ノ内 主要ナルモノノ 蒸氣管ハ該補助 機械ヨリ元弁迄 トシ他ノ中間弁 ヨリ補助機械迄 トシ該補助機械 ニ元弁ヲ含ム 三、送氣管(水雷長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 專屬ノ氣密器 ヲ有スル場合ハ 該氣密器ヨリ裝 置迄 (ロ) 右以外ノ場合 ハ裝置ヨリ減壓 弁又ハ塞止弁迄
飛行長	飛行機指揮裝置用電路・射出指揮裝置用電路・着艦制動裝置用電路・主管電動機用電路(飛行機エレベータ用、射出機旋回用、揚爆彈裝置用、輕質油ポンプ用、防火鋸扉閉閉用、前面遮風柵用、起倒式クレール用、橫索紅起裝置用、電動ホイスト用、橋起倒裝置用等)・飛行科關係照燈・信號燈及諸標示燈用電路・飛行科充電器及電熱器用電路補助飛行機エレベータ原動機用蒸氣管・其ノ他主管兵器專用又ハ主トシテ使用スル電路蒸氣管、送氣管	(一) 路 (1) 電動機側 (2) 二次側全部 (ハ) 高聲電話・各種 通話裝置・管 制裝置・指示裝 置・管理裝置航 海燈・信號燈等 ノ電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源配電盤 接斷器又ハ電 源分電箱ト給 電點間電路電 路(但シ低壓 配電盤ト配線 盤(又ハ配線 箱)間電路ヲ 除ク) (ニ) 其ノ他ノ諸裝 置電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源電路 一、二、三項 ニ準ズ 二、蒸氣管(機關長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 補助機械ニ專 用ノ元弁又ハ同 一主管ノ補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 補助機械ヨリ元 弁迄(元弁ヲ含 ム)以下做之) (ロ) 他主管補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 該補助機械ノ内 主要ナルモノノ 蒸氣管ハ該補助 機械ヨリ元弁迄 トシ他ノ中間弁 ヨリ補助機械迄 トシ該補助機械 ニ元弁ヲ含ム 三、送氣管(水雷長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 專屬ノ氣密器 ヲ有スル場合ハ 該氣密器ヨリ裝 置迄 (ロ) 右以外ノ場合 ハ裝置ヨリ減壓 弁又ハ塞止弁迄
機關長	機關指揮及同管理裝置用電路・電氣溫度計(重油タンク用)電路・主管電動機用電路(機關室消防バルブポンプ用、機械室及操縱室給氣並ニ排氣通風機用、熱煙冷却ポンプ用、主機械回轉用、ドレン冷却ポンプ用、潤滑油清淨機用、主及補助重油噴燃ポンプ用、離室強壓通風機用、補助離送風機用、重油移動ポンプ用、注油ポンプ用、燃料油清淨機用、冷却油ポンプ用、冷却水ポンプ用、眞水ポンプ用、空氣壓縮ポンプ〔ディーゼル機械用〕用、造水裝置附屬ポンプ用、電氣回轉速度計試驗器用、排煙通風機用、給水ポンプ用、循環水ポンプ用、復水ポンプ用等)・機關關係各種水面計照燈電路・機關科諸兵器目盛照燈電路・サイレン用蒸氣管、蒸氣管(他主管ノモノヲ除ク)・其ノ他主管兵器機關専用又ハ主トシテ使用スル電路・送氣管	(一) 路 (1) 電動機側 (2) 二次側全部 (ハ) 高聲電話・各種 通話裝置・管 制裝置・指示裝 置・管理裝置航 海燈・信號燈等 ノ電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源配電盤 接斷器又ハ電 源分電箱ト給 電點間電路電 路(但シ低壓 配電盤ト配線 盤(又ハ配線 箱)間電路ヲ 除ク) (ニ) 其ノ他ノ諸裝 置電路 (一) 兵器相互間 電路 (二) 電源電路 一、二、三項 ニ準ズ 二、蒸氣管(機關長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 補助機械ニ專 用ノ元弁又ハ同 一主管ノ補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 補助機械ヨリ元 弁迄(元弁ヲ含 ム)以下做之) (ロ) 他主管補助機 械ニ共通ノ元弁 ヲ有スル場合ハ 該補助機械ノ内 主要ナルモノノ 蒸氣管ハ該補助 機械ヨリ元弁迄 トシ他ノ中間弁 ヨリ補助機械迄 トシ該補助機械 ニ元弁ヲ含ム 三、送氣管(水雷長 主管ヲ除ク)ノ内 譯 (イ) 專屬ノ氣密器 ヲ有スル場合ハ 該氣密器ヨリ裝 置迄 (ロ) 右以外ノ場合 ハ裝置ヨリ減壓 弁又ハ塞止弁迄

掌櫃

掌櫃長

給與

糧食

被服

需品

達第二百七十三號

雜役船トシテ建造セル高速裝甲艇第一號乃至第九號軍艇（九隻）ヲ特務艇ニ編入シ左ノ通命名ス  
昭和十八年十一月十日

海軍大臣 鳴田 繁太郎

自第一號軍艇

至第九號軍艇

達

六四五

1873

達第二百七十四號

艦船機關來歷簿中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月十一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第一條 艦船機關來歷簿艦船(雜役船ヲ除ク以下之ニ限ル)ノ機關、兵器及船體(機關長主管ノミ)ノ來歴竝ニ機關ノ管理ニ關スル諸要項ヲ記錄シ以テ將來ノ參考ニ資スルモノトス

第二條 艦船機關來歷簿ハ内務長、航海長、砲術長、水雷長及機關長ノ各主管ニ分チ(潜水艦ニ在リテハ機關長主管ノミ)各主管者之ヲ保管シ除籍セラレタル艦船ノ來歴簿ハ當該艦船所管鎮守府ニ於テ之ヲ保管スルモノトス

第三條 艦船機關來歷簿ハ次ノ各號ニ依リ整理スルモノトス

- 一 艦船機關來歷簿(内務長主管)ニハ艦船機關來歷簿假綴(内務長主管)ヲ設ケ戰艦ニ在リテハ同假綴ヲ電機部、補機部ノ二冊ニ分チ其ノ他ノ艦船ニ在リテハ各部ヲ包括シタルモノヲ一冊トシ大凡毎二年ヲ一期トシテ之ヲ一括整理シ艦船機關來歷簿(内務長主管)ニ綴込ムモノトス
- 二 艦船機關來歷簿(機關長主管)ニハ艦船來歷簿假綴(機關長主管)ヲ設ケ軍艦(砲艦ヲ除ク)

達

六四七

1874

ニ在リテハ同假綴ヲ機械部、罐部ノ二冊ニ分チ、其ノ他ノ艦船ニ在リテハ各部ヲ包括シタルモノヲ一冊トシ大凡毎二年ヲ一期トシテ一括整理シ艦船機關來歴簿(機關長主管)ニ綴込ムモノトス

三 艦船機關來歴簿(航海長主管) (砲術長主管) (水雷長主管) ハ各一冊トシ假綴ヲ設ケザルモノトス

第四條 艦船機關來歴簿ノ編組ハ次ニ依ルヲ例トシ艦船機關來歴簿假綴ハ之ニ準ズルモノトス

一 内務長主管

- (一) 教令
  - (二) 索引目錄
  - (三) 役務表
  - (四) 主務職員服務表
  - (五) 一般來歴
  - (六) 機關管理要項
  - (七) 主要機關使用時數表
  - (八) 機關檢査計測表
  - (九) 機關附屬物、補用品換裝表
  - (十) 蓄電池充放電表
  - (十一) 局部來歴
  - (十二) 圖表部
- 二 航海長、砲術長、水雷長各主管
- (一) 教令
  - (二) 索引目錄
  - (三) 役務表
  - (四) 主務職員服務表
  - (五) 一般來歴
  - (六) 機關管理要項

(七)	主要機關使用時數表	(八)	機關檢查計測表	(九)	機關附屬物、補用品換裝表
(十)	局部來歴	(土)	圖表部		
三 機關長主管					
(一)	教令	(二)	索引目錄	(三)	役務表
(四)	主務職員服務表	(五)	一般來歴	(六)	機關管理要項
(七)	出入渠表	(八)	運轉表	(九)	主要機關使用時數表
(十)	罐檢查表	(土)	罐水壓試驗表	(土)	罐鐵通及罐切開試驗表
(三)	罐管換裝表	(四)	複水器管換裝表	(五)	機關檢查計測表
(六)	機關附屬物、補用品換裝表	(七)	蓄電池充放電表 (潜水艦ノミ)		
(六)	局部來歴	(九)	圖表部		
第六條 主務職員服務表ニハ科長又ハ科長職務執行者及分隊長ノ更任ヲ記入スルモノトス (様式第三號用紙甲)					
第十一條 主要機關使用時數表ニハ主要機關ノ毎月使用時數合計ヲ記入シ更ニ教育年度終ニ於テ同年度ノ總計及製造當初 (又ハ改造當初) ヨリノ累計ヲ朱書記入スベシ (様式第七號用紙甲)					

達

六四九

1876

第十三條 機關檢査計測表ニハ概ネ次ノ當該主管ノ區分標準ニ依リ機關ノ主要部ノ偏差變調衰耗ノ程度ヲ計測ノ都度記入スベシ(様式適宜、用紙甲)

區分標準

一 內務長主管

(一) 電力機關

發電機、電動機、主要管制器、配電盤及電路ノ絶緣、抵抗導通試驗成績發電機及主要電動機軸承摩耗度

蓄電池通風試驗ガス定量試驗成績及檢測成績摘要

(二) 補助機械及關聯裝置

製氷機、冷却機、通風機及揚船機諸遊隙摩耗度

消防ポンプ排水ポンプビルヂポンプ諸遊隙摩耗度

(三) 機動艇機關諸計測(主機械軸系及罐ニ準ズ)

二 航海長主管

舵取機及關聯裝置諸遊隙摩耗度絶緣、抵抗(蒸氣舵取機ヲ除ク)



達

- 三 砲術長主管
  - 水壓ポンプ及關聯裝置諸遊隙摩耗度
  - 電動機探照灯及電路絕緣抵抗導通試驗成績
- 四 水雷長主管
  - 空氣壓縮ポンプ及關聯裝置諸遊隙摩耗度絕緣、抵抗
- 五 機關長主管
  - (一) 主機械
    - (イ) タービン
      - 翼諸遊隙 軸下降度 減速齒車摩耗度 推力軸受遊隙 諸軸受摩耗度
    - (ロ) ピストン機械
      - 蒸氣シリンダ遊隙 蒸氣シリンダ入り子摩耗度 ピストン諸遊隙 クランク軸クランク杓摩耗度
      - ピストン棒接合棒滑弁棒各滑動部摩耗度 リンク裝置摩耗度
      - 各裏金摩耗度 滑弁調整度
    - (ハ) 内火機械

六五二

1878

- 發動シリンダ遊隙 發動シリンダ入り摩耗度 ピストン諸遊隙 クラシク軸クラシク
- ク栓摩耗度 發動シリンダ壓縮容積 カム及動弁裝置調整度 主軸諸齒車摩耗度
- 各裏金摩耗度 燃料ポンプ吐出量及有効行程調整度
- 主機械附屬空氣壓縮ポンプポンプ胴遊隙及摩耗度
- 主機械附屬掃除ポンプポンプ胴遊隙及摩耗度
- (二) 軸系及推進器
  - 推進軸摩耗度 軸管遊隙 各軸受摩耗度 推力軸受遊隙 各種接手遊隙及摩耗度
  - 推進器回轉力率
- (三) 罐
  - 罐管屈曲度 罐筒筒變形度 罐安全弁調整度
- (四) 補助機械
  - 主要タービン補助機械翼諸遊隙及減速齒車摩耗度
  - 主要ピストン補助機械蒸氣シリンダ壓縮シリンダポンプ諸遊隙及滑弁應差弁遊隙(蒸氣能取機ヲ含ム)

1879

- 主要旋轉ボシブ扇車遊隙 主要補助機械軸受及滑動部摩擦度
- (五) 諸管装置
  - 主及補助蒸氣管漏洩箇所検査
- (六) 電力機關(潜水艦ノミ)
  - 發電機電動機主要管制器配電盤及電路絶縁導通試験成績
  - 發電機及主要電動機軸受摩擦度
  - 主蓄電池通風試験及ガス定量試験成績
  - 主蓄電池檢測成績摘要
- (七) 雜
  - 保護亜鉛保護鋼板減耗度
- 第十五條 蓄電池充放電表ニハ潜水艦主蓄電池及艦艇特務艦艇(潜水艦ヲ除ク)豫備電源用蓄電池  
(二〇〇ボルト一〇〇アンペア時以上ノモノ)ノ全放電試驗實施ノ都度記入スルモノトス(様式  
第十二號用紙甲)
- 第十六條 局部來歴ニハ次ノ當該主管ノ區分標準ニ依リ機關及關聯裝置ニ就キ新設改造修理檢査保

達

六五三

1880

護其ノ他効力ニ關係スル重要ナル事項ヲ詳細記入スルモノトス(用紙丙)

區分標準

一 内務長主管

(一) 電力機關

發電機及關聯裝置 各種電動機 配電盤 電路及關聯裝置 蓄電池

(二) 補助機械及關聯裝置

冷却機製氷機及關聯裝置 揚錨機及關聯裝置 揚艇機及關聯裝置 通風機及關聯裝置

置 消防ポンプ及關聯裝置 排水ポンプ及關聯裝置

(三) 機動艇機關

二 航海長主管

舵取機及關聯裝置

三 砲術長主管

水壓ポンプ及關聯裝置 各種電動機探照灯及關聯裝置

四 水雷長主管

空氣壓縮ポンプ及關聯裝置

五、機關長主管

(一) 主機械

(イ) タービン

軸車 タービン車室及仕切板

翼及縁抑

齒車減速裝置及嵌脫裝置

タービン附

屬諸裝置

(ロ) ピストン機械

蒸氣シリンダ及蓋

ピストン

ピストン棒接合棒及滑頭

滑弁棒滑弁及偏心器

クランク軸クランク栓

架構及臺板

ピストン機械附屬諸裝置

(ハ) 内火機械

發動シリンダ同入子及蓋

ピストン

ピストン棒接合棒及滑頭

クランク軸クラン

ク栓及勢車

主機械附屬空氣壓縮ポンプ及關聯裝置

主機械附屬掃除ポンプ及關聯裝

置 カム及動弁裝置

燃料ポンプ及關聯裝置

架構及臺板

内火機械附屬諸裝置

(ニ) 軸系及推進器

達

六五五

1882

軸系及諸軸受 各種接手及クラッチ 軸管 推進器

(三) 罐及煙路煙突

罐本體及罐管 罐圍及罐脚 炉 煙路及煙突 噴燃器及コーン 罐附屬裝置及罐

取付品

(四) 補助機械及關聯裝置

主復水器 主抽氣ポンプ及關聯裝置(放射抽氣器及抽水ポンプヲ含ム) 主送水ポンプ  
及關聯裝置 補助復水器及關聯裝置 注油ポンプ及關聯裝置 循環ポンプ及關聯裝置  
掃除ポンプ及關聯裝置 發停裝置 造水裝置 泄水裝置 主機械回轉裝置 重油  
噴燃ポンプ及關聯裝置 給水ポンプ及給水裝置 送風機及關聯裝置 氣吹裝置 灰  
捨裝置 重油移動ポンプ及關聯裝置 眞水ポンプ及關聯裝置 油清淨器及關聯裝置

(五) 諸管裝置

蒸氣管排出管及疏水管裝置 潜水艦排氣管消音器及關聯裝置

(六) 電力機關(潜水艦ノミ)

發電機及關聯裝置 主電動機及關聯裝置 補助發電機及關聯裝置 各種電動機

配電盤 電路及關聯裝置 主蓄電池 主蓄電池通風裝置

(七) 雜

通信裝置 諸計器 給水タンク豫備水タンク及溢出タンク 重油タンク石油タンク及揮發油タンク 炭庫 潤滑油タンク 單底及二重底 前項以外ノ諸機械及諸裝置

第十八條 艦船機關來歷簿ノ記載事項ハ科長交代ノ際詳ニ申繼グベシ

様式第一號中「機關長服務表」ヲ「(主務職員服務表)」ニ改ム

様式第三號中「機關長服務表」ヲ「主務職員服務表」ニ改ム

様式第十二號中「潛水艦主二次電池充放電表」ヲ「蓄電池充放電表」ニ、「初度課電年月」ヲ「初度充電年月」ニ、「課電量」ヲ「充電量」ニ、「總課電量」ヲ「總充電量」ニ、「課電回数」ヲ「充電回数」ニ改ム

機關來歷簿用紙(乙)中「第一種煉炭」ヲ「一號煉炭」ニ、「第一種塊炭」ヲ「一號塊炭」ニ、「第二種煉炭」ヲ「二號煉炭」ニ、「第二種塊炭」ヲ「二號塊炭」ニ改ム

機關來歷簿用紙(戊ノ一)中「罐臺」ヲ「罐脚」ニ、「火床棧及同承」ヲ「火格子及同受」ニ、「煙路及邪魔板」ヲ「煙路及同塞板」ニ改メ検査官氏名中「機關」ヲ削ル

達

六五七

1884

機關來歷簿用紙（戊ノ二）中「爐筒」ヲ「炉筒」ニ、「燃室」ヲ「燃燒室」ニ、「罐臺」ヲ「罐脚」ニ、「火床棧及同承」ヲ「火格子及同受」ニ改メ検査官氏名中「機關」ヲ削ル  
表紙中「…機關來歷簿」ヲ「…機關來歷簿（…主管）」ニ改ム

附 則

本達ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
從來ノ艦船機關來歷簿ハ現在品ノ存スル限り之ヲ訂正使用スルコトヲ得

1885



掌衣糧長

掌經理長

給與係

糧食係

被服係

用品係

達第二百七十五號

海陸軍徵備船舶以外ノ船舶ノ乗組員タル海軍軍屬ノ犯罪犯行處理手續左ノ通定ム

昭和十八年十一月十二日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海陸軍徵備船舶以外ノ船舶ノ乗組員タル海軍軍屬ノ犯罪犯行處理手續

第一章 總則

第一條 海陸軍徵備船舶以外ノ船舶ノ乗組員タル海軍軍屬(以下軍屬船員ト稱ス)ノ犯罪犯行處理

手續ハ海軍軍法會議法又ハ海軍懲罰令ニ依ルノ外本手續ニ依ル

第二章 犯罪處理手續

第一條 船長自船軍屬船員中犯罪者アルコトヲ認知シタルトキハ司法警察官職務執行者トシテ遲滯

ナク其ノ捜査ニ着手シ必要ナル取調ヲ爲シ書類ヲ整ヘ證憑ヲ蒐集シテ之ヲ軍法會議檢察官ニ送付

スベシ(書式第一乃至第七參照)

第三條 船長ハ出港其ノ他ノ事由ニ依リ急ヲ要シ前條ノ手續ヲ執ルコト能ハザル場合ニ於テハ前條

ノ手續ヲ爲サズシテ最寄ノ軍法會議檢察官又ハ海軍司法警察官ニ告發ヲ爲シ速ニ勾引狀ヲ發セラ

達

六五九

1886

レ度旨附記スベシ(書式第八參照)

第四條 船長逃亡罪ノ捜査ニ着手シタルトキハ之ト同時ニ犯人ノ本籍地又ハ其ノ潜伏見込地ノ憲兵、警察官等ニ其ノ所在捜査方及居所分明後直ニ最寄軍法會議檢察官ヘノ通知方ヲ依頼スベシ

第五條 第二條又ハ第三條ノ規定ニ依ル書類送付又ハ告發ヲ受ケタル軍法會議檢察官又ハ海軍司法警察官ハ被告人ヲ逮捕、勾引若ハ勾留シ又ハ捜査報告ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨船長ニ通知スベシ

船長ハ前項ノ通知アル迄特別ノ事情ナキ限り當該被告人ノ雇止手續ヲ爲スベカラズ

第六條 捜査關係書類調製者ハ必ズ其ノ氏名ヲ自署シ且捺印シ二葉以上ニ亘ル書類ニハ契印シ挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ箇所ニ捺印シ其ノ字數及挿入又ハ削除シタル旨欄外ニ記載スベシ

### 第三章 犯行處理手續

第七條 船長軍屬船員ニ海軍懲罰令第九條ニ掲グル犯行アルコトヲ認知シタルトキハ犯行者准士官以上ニ準ズベキ者ニ付テハ兵備局長ニ、其ノ他ノ者ニ付テハ兵備局第三課長ニ遲滯ナク其ノ事實ヲ報告スベシ

第八條 前條ノ報告アリタルトキハ准士官以上ニ準ズベキ者ニ對シテハ兵備局長、其ノ他ノ者ニ對

1887

シテハ指定懲罰権者トシテ兵備局第三課長懲罰言渡書ヲ調製シ船長又ハ該船寄港豫定地ノ地方在勤海軍武官ニ之ヲ送付シ之ガ交付又ハ言渡ヲ囑託スベシ

前項ノ囑託ヲ受ケタル船長又ハ地方在勤海軍武官ハ謹慎ノ處分ニ在リテハ受罰者ニ之ヲ交付シ禁足ノ處分ニ在リテハ他ノ船員ノ列前ニ於テ受罰者ニ之ヲ言渡スベシ

第九條 船長又ハ地方在勤海軍武官前條ノ手續ヲ終リタルトキハ其ノ旨囑託者ニ通知シ准士官以上ニ準ズベキ者ノ懲罰ハ兵備局長之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

第十條 軍屬船員ノ懲罰ハ兵備局第三課長之ヲ運輸通信省海運總局、船舶運營會、船主等關係ノ向ニ通報スベシ

(別表一書式八葉添)

達

六六一

1888

達第二百七十六號

海上護衛總司令部處務規程左ノ通定ム

昭和十八年十一月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海上護衛總司令部處務規程

鎮守府處務規程第二條乃至第四條、第六條、第十二條、第十四條及第十六條乃至第十九條ノ規定ハ  
海上護衛總司令部ニ之ヲ準用ス

(諸例則卷一、一五五頁参照)

達第二百七十七號

昭和十七年達第五十一號ハ之ヲ廢止ス

昭和十八年十一月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

参照 昭和十七年達第五十一號ハ關東州ニ於ケル土木、建築工事ノ實施竝ニ國有財産ノ整理及取扱ハ佐世保海軍施設部ノ所掌ト  
ナスノ件ナリ

達

六六三

1889

書式第一

(昭和十八年達第二百七十五號)

發送番號

年 月 日

指定船

丸船長 氏

名 ㊦

鎮守府軍法會議檢察官殿

被告事件捜査書類送付

指定船

丸

甲板長(職名)

何

某

右ノ者逃亡罪(竊盜罪等罪名)ヲ犯シ海軍刑法第七十三條(刑法第二百三十五條等適條)ニ該當ス  
ルモノト思料ス

(一件記録一、證據物件一、添附)

註 一 船長ハ大正十二年勅令第五百二十八號司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フベキ者ノ指  
定等ニ關スル件第七條第一項ノ規定ニ依リ船内ニ於テ司法警察官ノ職務ヲ行フモノナルヲ以  
テ海軍軍法會議法第七十二條檢察官ノ補佐トシテ捜査書類ヲ作成送付スルモノナリ

1890

書式第二

(昭和十八年達第二百七十五號)

年 月 日

指定船 丸事務長(一等運轉士) 氏

名 〇

指定船

丸船長

殿

告 發 書

本船調理員(甲板員) 何

某

右者本船何港碇泊中何年何月何日何時何分ヨリ何日何時何分迄ノ許可ヲ得テ上陸シ同時刻ヲ過グル  
モ歸船セズ本日何時何分ニ至リ滿三日ヲ經過シ逃亡罪ヲ犯シタルモノト思料ス

註 一 告發書ハ逃亡事件ニハ必ず添附スルコトヲ要ス

二 一等運轉士、機關長、事務長等ハ各部職掌ノ上位ニ在ルモノトシテ告發スルモノナリ

年 月 日

指定船

丸 機關長

氏

名

㊦

指定船

丸 船長

殿

所在 捜査ノ件復命

本船 機關員

何

某

右者逃亡事件ニ付所在取調ノ命ヲ受ケ何市何町何番地何某方其ノ他心當リノ箇所ニ就キ取調ベタル  
モ其ノ所在ヲ發見スルヲ得ズ然レ共某ノ言ニ依レバ何月何日頃某地ニ立越ス旨話シ居タリトノ事ナ  
レバ或ハ同地ニ潜伏シ居ルヤモ計ラレズト思料ス  
尙同人ハ逃亡前某ヨリ時計ヲ借受ケタル儘之ヲ携帶シタルモノノ如シ

註 一 捜査復命書ニハ捜査シタル狀況ヲ成ルベク詳細ニ記載スルコト

書式第四

(昭和十八年達第二百七十五號)

年	月	日	指定船	丸船長	氏	名	①
一、丈	一、眉	一、鼻	指定船	丸	甲板員	何	某
一、顔	一、髮	一、耳					
一、眼	一、肉	一、齒					
一、口	一、色	一、舌					
一、特徴							

註 一 人相書ハ被告人所在不明ノ場合ニ限リ添附スルコト  
 二 人相ハ犯罪當時ノ實際ニ就キ努メテ之ヲ詳記シ殊ニ其ノ特徴ニ留意スルヲ要ス

1893



(昭和十八年達第二百七十五號)

素行調書	甲板員 何 某
一、乘船年月日	
一、刑罰	(何年何月何日何軍法會議ニ於テ何罪ニ依リ何々ニ處セラル) (何年何月何日海軍懲罰令第九條第何號ニ依リ禁足何日ニ處セラル) (何年何月何日何々ニ依リ何々ヲ賞與セラル)
一、賞	(狡猾、頑愚、伶俐、溫和、實直) (遲鈍ニシテ人ニ欺カレ易シ) (飲酒スレバ暴行ヲ爲スノ癖アリ)
一、性質智能	
一、服務ノ狀況	(酒ヲ嗜ミ酒量何程位) (剣道ヲ好ミ何級ノ免許ヲ有ス)
一、嗜好	(身體強壯ニシテ乘船以來疾病ニ罹リタルコトナシ)
一、健康狀態	(尋常小學卒業) (高等小學校卒業後自習目下中學三年修了程度ノ學歷ヲ有ス)
一、教育	(友ニ嫌ハルルノ風アリ) (交際ヲ好マズ從テ親友ナシ) (前科者何某ト親シク交ハル)
一、交際ノ狀況	
一、父兄其ノ他親族ニ對スル平素ノ行動及父兄等ノ本人ニ對スル待遇	(貨家ハ多少ノ資産アリ實父ヨリ時々金何圓乃至何圓位ノ送金アリタル様子ナリ) (郷里ニ内縁ノ妻アリ書狀ノ到來スルコト屢ナリ) (繼母トノ折合惡シク歸郷スルヲ好マズ實家亦本人ヲ願ミザルモノノ如シ)
一、精神病系統ノ有無	(祖父某精神ニ異狀ヲ來シ一時監置セラレタルコトアリト謂フ)
一、犯罪ノ緣由	(酒色ニ耽リ金錢ヲ浪費シ負債ヲ生ジタル爲ト認メラル)
一、家族住所其ノ他本人ノ毎ニ出入スル場所	(家族住所何市何町何番地何某方) (上陸毎ニ遊廓何樓ニ登樓、同樓何子ト深ク馴染ミ居タル模様ナリ)
一、其ノ他參考事項	
年 月 日	
指定船	丸船長 氏
	名

註

- 一 素行調書ハ量刑上參考ト爲ルベキモノナレバ本人ノ利益ナル事項及不利益ナル事項共慎重詳細ニ記載シ尙作成者ニ於テ列記項目以外ニ意見アル場合ハ之ヲ參考事項欄ニ記載スルコト
- 二 素行調書ハ如何ナル被告事件ニ對シテモ必ず添附スルコト

聽取書

指定船

丸甲板員

何

年 月 日生

右者本職ニ對シ任意左ノ陳述ヲ爲シタリ

一、私ハ乘船何々何々港碇泊申何年月何日午後何時カラ翌何日午前何時迄ノ允許ヲ得テ上陸シ何所ニ於テ友人某ト共ニ酒何合ヲ飲ミ相當酩酊シテ某遊廓ヲ素見ニ參リマシタ處何時頃豫テ不仲ノ某ニ出會ヒ云々ト罵ラレマシタノデ立腹ノ餘附近ニ轉ンデ屈タ拳大ノ石ヲ拾ヒ之ヲ以テ同人ノ頭部ヲ打チ負傷サセマシタ

一、某ト不仲ノ原因ハ云々デアリマス

一、某ヲ負傷サセテカラ私ハ云々シマシタ

右錄取シ讀聞ケタル處相違ナキ旨申立テ左ニ署名捺(拇)印シタリ

何 某

年 月 日

指定船

丸船長

氏

名

註 一 聽取書ハ犯人ニ就キ聽取ヲ爲シタル場合ニ之ヲ作成ス

二 關係人ニ就キ聽取ヲ爲シタル場合亦本書式ニ準ジテ聽取書ヲ作製スルコト

(昭和十八年達第二百七十五號)

年 月 日

指定船 丸甲板員 何

某 ㊦

指定船 丸船長

氏 名 殿

被害ノ件 御届

一、被害物件

一、金何圓何拾何錢也

但シ何紙幣何枚、何白銅貨何個、何銅貨何個

一、何型金側腕巻時計(腕革附)壹個時價何圓位

一、被害ノ日時

何年何月何日何時(又ハ何年何月何日何時ヨリ翌何日何時迄ノ間)

一、被害ノ場所

本船中甲板後部右机抽斗

一、被害ノ模様

前記物件何年何月何日何時頃前記場所ノ机抽斗内ニ格納シ置キ翌何日何時頃入用アリテ取出サント

シタルニ見當ラズ何者カニ竊取セラレタリ

(其ノ他參考ト爲ルベキ事項アラバ記載ノコト)

註

一 被害届ハ竊盜、詐欺、横領等財産ニ關スル犯罪ノ場合ニ提出セシムルモノトス

二 船内ノ被害ニ付テハ其ノ當時ノ同船所在地ヲ記入セシムルコト

書式第八

(昭和十八年達第二百七十五號)

發送番號

年 月 日

吳鎮守府軍法會議檢察官殿

告 發 書

指定船

丸船長 氏

名 〇

指定船

丸甲板員 何

某

右者本船何港碇泊中何年何月何日何時頃擅ニ脱船シ(何年何月何日何時ヨリ何日何時迄許可ヲ得テ上陸シ同時刻ヲ過グルモ歸船セズ)依テ行衛取調べタルモ其ノ所在不明ニシテ本日何時何分本船同港ヲ出港ノ期ニ至ルモ歸投セズ脱船罪(逃亡罪)ヲ犯シタルモノト思料ス

尙本船行動必要上右某ヲ屢止致シ度ニ付速ニ同人ニ對シ勾引狀ヲ發セラレ度

- 註 一 本告發書ハ碇泊時間、出港時刻等ノ關係ニテ事件處理ニ急ヲ要スル場合ニ船長ヨリ提出スルモノナリ場合ニ依リテハ口頭ヲ以テ告發スルコトヲ得
- 二 書類ヲ送付シ又ハ告發書ヲ提出スベキ管轄軍法會議ニ關シテハ地方在勤海軍武官ニ問合スヲ可トス

1897

別表

書式目録

- 一 被告事件捜査書類送付書
- 二 告 發 書
- 三 捜査復命書
- 四 人 相 書
- 五 素行調書
- 六 聽 取 書
- 七 被 害 届
- 八 告 發 書

(昭和十八年達第二百七十五號)

1898

表  
長

達第二百七十八號 (後送ス)

達第二百七十九號

艦船職員服務規程中左ノ通改正ス

昭和十八年十一月十六日

海軍大臣 嶋田繁太郎



目次中「第三章 副長」ノ次ニ「第三章ノ二 内務長」ヲ加ヘ「第八章 運用長」ノ第八章ノ三 整備  
 備長」ノ第九章ノ二 工作長」及「第十四章 機關科分隊長、工作分隊長」ヲ削リ「第八章ノ二」  
 フ「第八章」ニ、「第十二章ノ三」ヲ「第十三章」ニ、「第十三章 兵科分隊長、飛行科分隊長、整  
 備科分隊長」ヲ「第十四章 兵科分隊長」ニ改ム

第七十九條中「艦長ハ」ノ下ニ「當直將校ノ勤務ニ服スヘキ」ヲ加フ

第七十九條ノ二中「甲板士官、」ノ下ニ「掌内務長、」ヲ加ヘ「掌運用長、」及「掌整備長」ヲ  
 削リ「乗組兵科及飛行科特務士官、准士官」ヲ「乗組特務士官(兵曹長及飛行兵曹長出身ノ者以下  
 (水)トアルハ兵曹長出身ノ者、(飛)トアルハ飛行兵曹長出身ノ者トス) 竝ニ水兵科及飛行科准士  
 官」ニ、「兵科及飛行科特務士官、准士官」ヲ「特務士官(水)及(飛) 竝ニ水兵科及飛行科准士  
 官」ニ改ム

達

六六七

1899

第八十二條及第八十三條中、「特務中少尉又ハ飛行特務中少尉」ヲ「又ハ中少尉（水）及（飛）」ニ改ム

第八十五條 艦長ハ機關科當直ノ勤務ニ服スヘキ中佐タル職員又ハ掌内務長、掌機長及掌電機長タル職員ニ當直勤務ヲ課セサルヲ例トス

第八十六條第一項中「機關中少尉及機關特務中少尉」ヲ「中少尉及中少尉（機關兵曹長出身ノ者以下（機）トアルハ機關兵曹長出身ノ者トス）」ニ、同條第二項中「機關中少尉及機關特務中少尉」ヲ「中少尉及中少尉（機）」ニ改ム

第八十七條中「機關中少尉、機關特務中少尉」ヲ「中少尉、中少尉（機）」ニ、「機關科佐尉官」ヲ

「機關科當直ノ將校タルヘキ佐尉官」ニ、「機關少尉候補生」ヲ「少尉候補生」ニ改ム

第八十八條中「機關少尉候補生」ヲ「少尉候補生」ニ改ム

第八十九條中「及機關少尉候補生」及「又ハ當直機關少尉候補生」ヲ削ル

第九十六條中「旅順要港部病院」ヲ削ル

第三百三十一條中「要港部司令官」ヲ「警備府司令長官」ニ改ム

第三百三十七條中「但シ」ノ下ニ「内務科（運用部ヲ除ク）」ヲ、「之ヲ」ノ下ニ「内務長、」ヲ加

1900

へ「工作科、」及「工作長、」ヲ削ル

第五十四條中「配付シ」ノ下ニ「内務長、」ヲ加へ「運用長、」、「整備長、」及「工作長、」ヲ削ル

第六十五條中「當直規程中」ノ下ニ「内務科ニ關スル部ハ内務長、」ヲ加へ「工作科ニ關スル部ハ工作長、」ヲ削ル

第三章ノ次ニ左ノ一章ヲ加フ

### 第三章ノ二 内務長

第七十二條ノ二 内務長ハ其ノ擔任所掌ニ關係アル事項ニ付艦長ノ職務ヲ輔佐スヘシ

第七十二條ノ三 内務長ハ内務科ノ部署ニ關スル訓練ヲ監督シ之カ方針計畫ヲ定メ實施ヲ指揮監督シテ其ノ熟達鍊磨ニ努メ又運用、應急、電機、補機、注排水、工作及潜水ニ關スル一般ノ教育ヲ按圖指導シテ之カ進歩齊一ヲ圖ルヘシ

第七十二條ノ四 内務長ハ其ノ主管ノ船體、艦船艦裝品、機關、機關附屬物及兵備品ノ構造、來歴、性能、用法、効力及其ノ現状ヲ知悉シ分擔者ヲ督勵シ他ノ主管者ト協力シテ之ヲ整備保存シ且其ノ充實ヲ圖リ以テ常ニ實用ニ支障ナカラシムルト共ニ艦内一般ノ構造ニ通曉シ特ニ運用、

1901



應急、電機、補機、工作、注排水及潛水竝ニ所掌ノ諸装置、器具、索具等ノ活用ニ關シ充分ナル  
研究練磨ヲ積ミ事ニ當リテ全能ヲ發揮セシムルコトヲ期シ又消耗品ノ節約ニ注意シ法規ノ制限及  
豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ處辨スルコトヲ努ムヘシ

第一百七十二條ノ五 内務長ハ其ノ主管ノ物件ニ異狀缺損アルコトヲ發見シタルトキハ速ニ其ノ原因  
ヲ精査シ必要ト認ムルモノハ之ヲ艦長ニ報告スヘシ但シ事件重大ナルモノハ先ツ其ノ概要ヲ報告  
シ又緊急ノ場合ニ於テハ報告ニ先立テ適宜必要ナル手段ヲ執ルコトヲ得

第一百七十二條ノ六 内務長ハ其ノ主管ノ物件中改造、修理、検査又ハ定額ノ變更、豫算ノ増減等ヲ  
要スルモノアルトキハ理由ヲ具シ之ヲ艦長ニ報告スヘシ但シ乗員ノ手ニテ施行シ得ル検査、修理  
等ニシテ事態輕微ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第一百七十二條ノ七 内務長ハ其ノ主管物件中乗員ノ手ニテ施行シ得ル検査、修理、整頓、手入等ヲ  
要スルモノアルトキ内務科員ノミヲ以テ施行シ得ル場合ニ於テハ速ニ之ヲ處理シ他ノ人員ヲ要ス  
ルトキハ所要ノ人員ヲ副長ニ請求シ又ハ他ノ主任者ニ之ヲ委託スヘシ但シ艦ノ行動航海ニ支障ア  
ル修理、検査、調整等ヲ施行セントスルトキハ豫メ艦長ノ許可ヲ受クルヲ要ス

第一百七十二條ノ八 内務長ハ其ノ主管物件ノ改造、修理、検査等ヲ施行スルトキハ其ノ作業ノ狀況

1902

ヲ監視シ又兵備品等ヲ還納若ハ領收スルニ當リテハ品質ノ適否、數量ノ多寡等ニ注意スヘシ

第一百七十二條ノ九 内務長ハ戦闘後速ニ其ノ主管物件ノ缺損ヲ艦長ニ報告シ爲シ得ル限之ヲ修補シテ爾後ノ戦闘ニ應スル準備ヲ爲スヘシ

第一百七十二條ノ十 内務長ハ其ノ主管ノ物件中重要ナルモノノ移動積換ヲ行ハントスルトキハ豫メ艦長ノ許可ヲ受クヘシ

第一百七十二條ノ十一 内務長ハ常ニ艦ノ釣合ニ注意シ他ノ主管ニ於テ艦ノ釣合ニ影響アル物件ノ移動積換ヲ行フトキ之カ協議ニ應シ要スレハ機關長ニ協議ノ上重油、眞水等ノ移動ヲ行ヒ艦ノ釣合ヲ保持スル如ク按畫實施シ釣合ニ大ナル變化アルトキハ艦長ニ報告スヘシ

第一百七十二條ノ十二 内務長ハ出港又ハ入渠前、入港又ハ出渠後及艦ノ釣合吃水ニ影響アル物件ノ移動積換ヲ行ヒタルトキハ艦ノ吃水ヲ測リ之ヲ航海長及機關長ニ通報スヘシ

第一百七十二條ノ十三 内務長ハ内務科員ヲ誘導監督シ常ニ其ノ服務ノ狀況ニ注意シ之カ才幹、技能、性行、健否等ヲ詳知シ下士官以下ノ進退ニ關シテハ其ノ議ニ參與スヘシ

第一百七十二條ノ十四 内務長ハ副長ノ指示ニ依リ内務科ニ充當スヘキ下士官以下ノ配置ヲ立案スヘシ配置變更ヲ要スルトキ亦同シ

達

六七一

1903